

**令和4(2022)年度  
全国学力・学習状況調査  
各教科の分析**



**下野市教育研究所  
令和5年2月**

# 令和4(2022)年度「全国学力・学習状況調査」結果

令和5年2月  
下野市教育委員会

## 調査について

### 1 調査の概要（「全国学力・学習状況調査」実施要項より一部抜粋）

#### (1) 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

#### (2) 調査実施日

令和4(2022)年4月19日(火)

#### (3) 調査対象

- ①小学校調査：小・義務教育学校第6学年
- ②中学校調査：中学校第3学年、義務教育学校第9学年

#### (4) 調査事項及び手法

##### ①教科に関する調査

- ・小学校調査：国語、算数、理科
- ・中学校調査：国語、数学、理科

##### ②児童生徒質問紙調査

- ・内容：学習意欲、学習方法、学習環境、家庭学習等
- ・方法：選択回答式
- ・質問数：69項目＋教科に関する項目6問

##### ③学校に対する調査

学校における指導に関する取組や学習環境等に関する質問紙調査を実施する。

#### (5) その他

本調査の結果は、学力の特定の一部であること、学校における活動の一側面であることに留意し、児童生徒の全般的な学習状況への指導・改善等につなげるよう留意する。

### 2 本市の参加状況 ※参加人数は最も多かった教科のもの

調査対象内訳	参加校数	参加人数
小・義務教育学校第6学年	9校	503人
中学校第3年・義務教育学校第9学年	4校	467人

# 本市の結果について

※小学校には義務教育学校前期過程、中学校には義務教育学校後期課程を含みます

## 1 概要

### 【教科に関する調査の結果】※下野市と県、全国の平均正答率の比較

- ◎ 大きく上回っている(5ポイント以上)、○ 上回っている(1ポイント以上5ポイント未満)  
 - 同じ(±1ポイント未満)  
 ▽ 下回っている(1ポイント以上5ポイント未満)、▼ 大きく下回っている(5ポイント以上)

小学校第6学年			中学校第3学年		
教科	県との比較	全国との比較	教科	県との比較	全国との比較
国語	○	○	国語	○	○
算数	○	○	数学	◎	○
理科	○	○	理科	◎	◎

## 2 結果の推移(全国平均正答率との比較)

### 【直近10年間の結果】

- ◎ 大きく上回っている(5ポイント以上)、○ 上回っている(1ポイント以上5ポイント未満)  
 - 同じ(±1ポイント未満)  
 ▽ 下回っている(1ポイント以上5ポイント未満)、▼ 大きく下回っている(5ポイント以上)

学年	教科	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4
小学校第6学年	国語A	○	▽	▽	◎	○	○	○	一斉実施なし	○	○
	国語B	○	○	◎	○	○	○				
	算数A	○	-	◎	◎	○	○				
	算数B	○	○	○	○	○	○				
	理科	/	/	○	/	/	○				
中学校第3学年	国語A	○	○	○	○	-	○	○	一斉実施なし	○	○
	国語B	◎	○	○	◎	○	○				
	数学A	○	○	○	○	○	-				
	数学B	○	◎	◎	○	○	○				
	理科	/	/	○	/	/	○				
	英語	/	/	/	/	/	○				

※平成31年度よりA問題とB問題の区分なし

# 各教科の結果について



## 1 国語

### 小学校第6学年

#### (1) 概要

- ◎ 大きく上回っている（5ポイント以上） ○ 上回っている（1ポイント以上5ポイント未満）  
 — 同程度（±1ポイント未満）  
 ▽ 下回っている（1ポイント以上 5ポイント未満） ▼ 大きく下回っている（5ポイント以上）

#### ① 学習指導要領の内容別正答率

	[知識及び技能]		[思考力、判断力、表現力等]		
	(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	(3)我が国の言語文化に関する事項	A 話すこと・聞くこと	B 書くこと	C 読むこと
県との比較	○	▽	—	○	○
全国との比較	○	—	—	○	○

#### ② 観点別正答率

	知識・技能	思考・判断・表現
県との比較	—	○
全国との比較	—	○

#### ③ 問題形式別正答率

	選択式	短答式	記述式
県との比較	○	△	○
全国との比較	○	△	○

#### (2) 課題が見られた設問

3 三

学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う。

3 島谷さんの学級では、「六年生としてがんばりたいこと」を書くことにしました。次は、島谷さんが最初に書いた【文章1】と【文章2】です。これらをよく読んで、あとの問いに答えましょう。（【文章1】【文章2】は省略）

三 島谷さんは、【文章2】を読み、習っている漢字がひらがなになっていた——部ア、イ、ウを漢字に書き直すことにしました。

(略)南さんのように、みんなのために新たな活動を提案できなかったことを、いはんせいしました。(略)運動が苦手な人もうしたしむことができるように、ルールや道具をくふうした、おに遊びやボールゲームを各学級にしようかいいたいです。

[正答]

イ 反省      ウ 親しむ

[平均正答率] イ 市50.3% 全国58.2%      [無解答率] 市6.8% 全国10.2%  
ウ 市64.2% 全国67.1%      [無解答率] 市13.3% 全国14.7%

[解答類型と反応率（市）]

イ「反省」

解 答 類 型	反 応 率
1 「反省」と解答しているもの（正答）	50.3%
2 「反」と解答しているが、「省」と解答していないもの	28.8%
3 「省」と解答しているが、「反」と解答していないもの	2.8%
上記以外の解答	11.3%
無解答	6.8%

ウ「親しむ」

解 答 類 型	反 応 率
1 「親しむ」と解答しているもの（正答）	64.2%
上記以外の解答	22.5%
無解答	13.3%

## ① 学習指導要領の内容

第5学年及び第6学年

[知識及び技能] (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項

エ 第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。

## ② 考察

いずれの問題も、全国よりも無解答率は少ないが平均正答率を下回る結果となった。解答類型の出現傾向は全国と同様であるが、問題イでは、類型2の解答が全国を1割近く上回っている。「令和4年度 全国学力・学習状況調査報告書」（国立教育政策研究所）によると、全国では「省」と同音の「成」「生」「正」「性」の誤りが多く見られるとある。問題ウでは、全国と比較してその他の解答の出現率が高くなっている。全国では、その他の解答の内容として「下」「新」の誤答が挙げられている。

指導に当たっては、各学校における誤答の傾向を捉えた上で、同じ読み方や同じ部分を持つ漢字に注意しながら正しく漢字を使えるようにしていくことが重要である。また、学習指導要領の指導事項では「文や文章の中で使う」と示されているように、漢字一文字を繰り返し練習する学習ばかりでなく、授業での振り返りや日常生活の中で文や文章を書く場面で、習った漢字を使うことを意識させることも必要である。

中学校第3学年

(1) 概要

- ◎ 大きく上回っている (5ポイント以上) ○ 上回っている (1ポイント以上5ポイント未満)  
 — 同程度 (±1ポイント未満)  
 ▽ 下回っている (1ポイント以上 5ポイント未満) ▼ 大きく下回っている (5ポイント以上)

① 学習指導要領の内容別正答率

	〔知識及び技能〕			〔思考力、判断力、表現力等〕		
	(1)言葉の特徴や 使い方に関する 事項	(2)情報の扱い方 に関する事項	(3)我が国の言語 文化に関する 事項	A 話すこと・ 聞くこと	B 書くこと	C 読むこと
県との比較	—	○	○	○	○	◎
全国との比較	—	○	○	○	○	◎

② 観点別正答率

	知識・技能	思考・判断・表現
県との比較	○	○
全国との比較	○	○

③ 問題形式別正答率

	選択式	短答式	記述式
県との比較	○	—	◎
全国との比較	○	▽	◎

(2) 課題が見られた設問

4 一  
行書の特徴を踏まえた書き方について説明したものとして適切なものを選択する。

⑦  
【最初に書いた文字】

【書き直した文字】

【最初に書いた文字】

竹内さんは、行書で「夢と希望」という文字を書いています。次の【最初に書いた文字】、【友達や先生からの助言】、【書き直した文字】を読んで、あとの問いに答えなさい。

【友達や先生からの助言】

行書の点画の書き方に気を付けて書いてみましたが、どうでしょうか。

全体的に行書の特徴を踏まえて書くことができています。ただ、漢字のバランスが悪いような気がします。先生、どうでしょうか。

漢字については青山さんの言うとおりですが、ひらがなの「と」についても課題がありそうですね。

一【最初に書いた文字】について、青山さんは「行書の特徴を踏まえて書くことができています」と述べていますが、その具体的な内容として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

1 ⑦の部分は、筆順の変化に気を付けて書くことができています。  
 (正答)

2 ①の部分は、楷書(かいしよ)と同様に点画を直線的に書くことができています。

3 ④の部分は、点画を省略して書くことができています。

4 ⑤の部分は、点画を連続して書くことができています。

[平均正答率] 市38.5% 全国39.4% [無解答率] 市0.2% 全国0.9%	
[解答類型と反応率(市)]	
解答類型	反応率
1 1と解答しているもの(正答)	38.5%
2 2と解答しているもの	9.6%
3 3と解答しているもの	43.7%
4 4と解答しているもの	7.9%
上記以外の解答	0%
無解答	0.2%

## ① 学習指導要領の内容

### 第1学年

[知識及び技能] (3)我が国の言語文化に関する事項

エ (イ) 漢字の行書の基礎的な書き方を理解して、身近な文字を行書で書くこと。

(書写)

## ② 考察

正答率は全国平均と同程度であったが、平均正答率が4割を下回る結果となった。解答類型の反応率は全国とほぼ同様の傾向である。類型3の反応率は43.7%であることから、半数近くの生徒が行書における「省略」の意味を正しく理解できていない、または、もとより「望」の字形を正しく捉えていないと考えられる。また、誤答を選んだ生徒は選択肢アに示された「筆順の変化に気を付けて書くことができている」ことを行書の特徴として理解できていないことから、「夢」の点と横画のつながりに着目し「くさかんむり」の筆順が変わっていることに気付いていない、あるいはもとより「くさかんむり」の筆順を正しく理解できていないと考えられる。

指導に当たっては、点や画の形が丸みを帯びる、点や画の方向及び止め・はね・払いの形が変わる、点や画が連続したり省略されたりする、筆順が変わる場合があるといった行書の特徴を正しく理解して書くことができるようにすることが求められる。

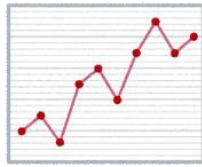
また、教師が行書の特徴や筆運びなどを教える活動だけで終わらず、楷書と行書で書いた同じ文字を比較して行書の特徴を確認したり、実際に書いた文字のよい点や改善点を話し合い修正したりするなど生徒自身が考える場面を設定することも必要である。「令和4年度全国学力・学習状況調査報告書」(国立教育政策研究所)には、以下の「振り返りの観点の例」が示されている。

- ・前時までに学習したことで、本時の学習に生かしたことは何か。
- ・本時(や本単元)で工夫しようとしたが、十分ではなかったことは何か。
- ・本時(や本単元)で感じた行書のよさは何か。
- ・今後、どのような場面で行書を使いたい。
- ・行書の特徴を踏まえて身近な文字を振り返ったときに、どのようなものが行書で書かれているか。

特に、書写の授業においては一斉指導の場面が多くなりがちのため、単元の途中や終末で生徒が振り返る場を設定するなど、学びを深めるために生徒が考える場面と教師が教える場面をバランスよく構成するという視点から授業改善を進めていくことが重要である。

## 2 算数・数学

小学校第6学年



### (1) 概要

- ◎ 大きく上回っている (5ポイント以上) ○ 上回っている (1ポイント以上5ポイント未満)  
 — 同程度 (±1ポイント未満)  
 ▼ 下回っている (1ポイント以上 5ポイント未満) ▼ 大きく下回っている (5ポイント以上)

### ① 学習指導要領の領域別正答率

	A 数と計算	B 図形	C 変化と関係	D データの活用
県との比較	—	○	○	○
全国との比較	—	○	—	○

### ② 観点別正答率

	知識・技能	思考・判断・表現
県との比較	○	○
全国との比較	—	○

### ③ 問題形式別正答率

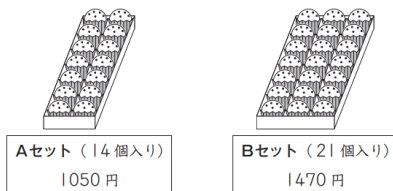
	選択式	短答式	記述式
県との比較	○	○	○
全国との比較	○	—	○

### (2) 課題が見られた設問

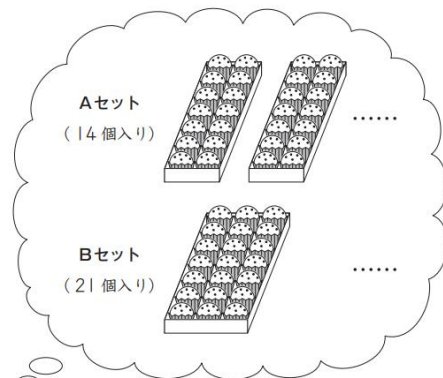
1 (2) 14と21の最小公倍数を求める。

1

カップケーキが、下のように売られています。1箱14個入りで1050円のAセットと、1箱21個入りで1470円のBセットがあります。



(2) まず、あいりさんは、AセットとBセットをそれぞれ何箱か買ったとして、考えることにしました。



カップケーキの個数を、14と21の最小公倍数にそろえて考えます。

14と21の最小公倍数を書きましょう。

[正答] 42



[平均正答率] 市68.0% 全国72.2% [無解答率] 市2.4% 全国3.0%  
 [解答類型と反応率(市)]

解答類型	反応率
1 42と解答しているもの(正答)	68.0%
2 294と解答しているもの	0.4%
3 類型1、類型2以外で、14と21の公倍数を解答しているもの	3.8%
4 7と解答しているもの	16.7%
5 2と解答しているもの 3と解答しているもの	1.6%
上記以外の解答	7.2%
無解答	2.4%

## ① 学習指導要領の内容

### 第5学年

#### A 数と計算 [知識・技能]

整数の性質及び整数の構成に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(イ) 約数、倍数について知ること。

(内容の取扱い)

内容の「A数と計算」の(1)のアの(イ)については、最大公約数や最小公倍数を形式的に求めることに偏ることなく、具体的な場面に即して取り扱うものとする。

## ② 考察

結果を全体的に見ると、平均正答率は、全ての領域、観点でわずかではあるが全国を上回った。しかし、設問別に見ていくと、4つの設問で全国平均正答率を下回った。下回った設問の領域は様々であるが、評価の観点は全て「知識・技能」であった。理解することだけにとどまらず、活用できる知識・技能の確実な習得が求められる。

平均正答率が全国と比べ最も下回った上記の設問①(2)では、解答類型4「7と解答しているもの」との解答が全国より4.5%多く、14と21の最大公約数を解答していると考えられる。

最大公約数や最小公倍数について理解する学習の際には、約数と倍数、公約数と公倍数、最大公約数と最小公倍数の名称とその意味について十分に理解させたい。最小公倍数を求める際には、答えを求めるだけでなく、求めた数が共通して2つの数の倍数になっていることや、最小であることを確認することを通してその意味を理解させることが大切である。

また、日常生活における事象に関連付けた問題に取り組むことを通して、それらを求める必要性を考えさせたり、それを求めることによって、事象における何が分かるのかを考えさせたりすることで理解を深めることが考えられる。

中学校第3学年

(1) 概要

◎ 大きく上回っている (5ポイント以上) ○ 上回っている (1ポイント以上5ポイント未満)  
 ー 同程度 (±1ポイント未満)  
 ▽ 下回っている (1ポイント以上 5ポイント未満) ▼ 大きく下回っている (5ポイント以上)

① 学習指導要領の領域別正答率

	A 数と式	B 図形	C 関数	D データの活用
県との比較	○	◎	◎	◎
全国との比較	○	◎	◎	○

② 観点別正答率

	知識・技能	思考・判断・表現
県との比較	◎	◎
全国との比較	○	◎

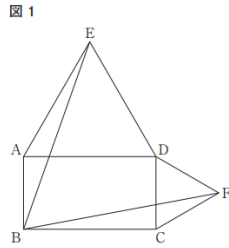
③ 問題形式別正答率

	選択式	短答式	記述式
県との比較	◎	◎	◎
全国との比較	◎	○	◎

(2) 課題が見られた設問

9 (2)  $\angle ABE$ と $\angle CBF$ の和が $30^\circ$ になる理由を示し、 $\angle EBF$ の大きさがいつでも $60^\circ$ になることの説明を完成する。

- 9 次の図1は、長方形ABCDの外側に辺AD、DCを1辺とする正三角形ADE、DCFをかき、点Eと点B、点Bと点Fを結んだものです。

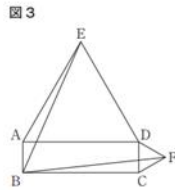
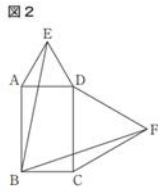


琴音さんは、線分EBと線分BFについて次のことを予想しました。

予想

長方形ABCDの外側に辺AD、DCを1辺とする正三角形ADE、DCFがあるとき、 $EB = BF$ になる。

- (2) 琴音さんは、次の図2や図3のように、21ページの図1の長方形ABCDの辺の長さをいろいろに変えた図をかきました。このときも、 $\triangle ABE = \triangle CFB$ が成り立つので、 $EB = BF$ がいえます。琴音さんは、 $EB = BF$ 以外にも、辺や角についていえることがないか調べました。

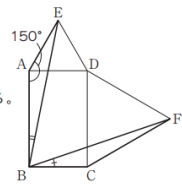


調べたことから、琴音さんは、長方形ABCDの辺の長さを変えても、 $\angle EBF$ の大きさがいつでも $60^\circ$ になると予想し、次のように考えました。

琴音さんの考え

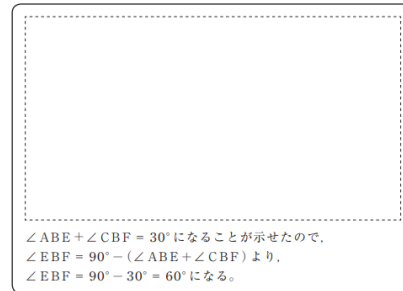
◇  $\angle EBF$ について、  
 $\angle ABC = 90^\circ$ より、  
 $\angle ABE + \angle CBF = 30^\circ$ がいえれば、  
 $\angle EBF = 90^\circ - 30^\circ$ となり、  
 $\angle EBF$ が $60^\circ$ になることがいえる。

◇  $\angle ABE + \angle CBF = 30^\circ$ になることは、 $\triangle ABE \cong \triangle CFB$ からわかる等しい角と、  
 $\angle EAB = 150^\circ$ を用いて示すことができる。



$\angle ABE + \angle CBF = 30^\circ$ を示すことで、長方形ABCDの辺の長さを変えても、 $\angle EBF$ の大きさがいつでも $60^\circ$ になることが説明できます。琴音さんの考えの◇にある $\triangle ABE = \triangle CFB$ と $\angle EAB = 150^\circ$ はすでにわかっていることとして、 $\angle ABE + \angle CBF = 30^\circ$ になることを下の説明の□に示し、 $\angle EBF$ の大きさがいつでも $60^\circ$ になることの説明を完成しなさい。

説明



$\angle ABE + \angle CBF = 30^\circ$ になることが示せたので、  
 $\angle EBF = 90^\circ - (\angle ABE + \angle CBF)$ より、  
 $\angle EBF = 90^\circ - 30^\circ = 60^\circ$ になる。

[正答例]

$\triangle ABE \cong \triangle CFB$ より、合同な図形の対応する角は等しいから、 $\angle AEB = \angle CBF$ ・・・①  
 $\triangle ABE$ において、三角形の内角の和は $180^\circ$ で、 $\angle BAE = 150^\circ$ であるから、 $150^\circ + \angle ABE + \angle AEB = 180^\circ$   $\angle ABE + \angle AEB = 30^\circ$ ・・・②

①、②より  $\angle ABE + \angle CBF = 30^\circ$

したがって、 $\angle ABE$ と $\angle CBF$ の和は $30^\circ$ になる

[正答の条件]

次の (a)、(b)、(c) について記述しているもの。

(a)  $\angle AEB = \angle CBF$  (b)  $\angle ABE + \angle AEB = 30^\circ$  (c)  $\angle ABE + \angle CBF = 30^\circ$

[平均正答率] 市19.5% 全国12.5% [無解答率] 市25.3% 全国38.5%  
 [解答類型と反応率(市)]

解答類型	反応率
1 (a)、(b)、(c)について記述しているもの。	16.3%
2 (a)、(b)、(c)について記述しているが、十分でないもの。	1.1%
3 (a)、(b)について記述しているもの。 ( (a)、(b)の表現が十分でないものを含む。)	0.9%
4 上記1～3以外で、(c)について記述し、 $\angle AEB = \angle CBF$ の和が $30^\circ$ になる理由を正しく説明しているもの。	1.1%
5 上記4について、表現が十分でないもの。 ( (c)について記述がないものを含む。)	0.2%
6 根拠として、 $\angle EBF = 60^\circ$ を用いているもの。	6.9%
7 (a)について、又は、(a)、(c)について記述しているもの。 ( (a)、(c)についての表現が十分でないものを含む。)	4.9%
8 (b)について、又は、(b)、(c)について記述しているもの。 ( (b)、(c)についての表現が十分でないものを含む。)	3.4%
9 (c)について記述しているもの。 ( (c)についての表現が十分でないものを含む。)	7.5%
上記以外の解答	32.5%
無解答	25.3%

### ① 学習指導要領の内容

[第2学年] B 図形 [思考・判断・表現]

図形の合同について、数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(イ) 三角形や平行四辺形の基本的な性質などを具体的な場面で活用すること

### ② 考察

結果を全体的に見ると、平均正答率は、全ての領域、観点で全国を上回った。特に、「図形」「関数」の領域、「思考・判断・表現」の観点で全国を大きく上回った。

設問9(2)は、平均正答率が全国を上回ったものの、19.5%と低い結果となった。解答類型6「 $\angle EBF = 60^\circ$ を用いているもの」が全国より2.6%多く、これから証明する内容を根拠として用いようとしたことになる。また、3つの条件のうちの1つか2つのみを記述しているものは16.7% (解答類型3、7、8、9)であった。

指導に当たっては、証明に用いることができる条件は、与えられた条件と、証明が済んでいる条件であることを確認する必要がある。そのために、証明の学習では、なぜその条件を用いることができるのか、なぜ用いることができないのかを考え、確認し合うことが大切である。また、証明は、いくつかの条件が揃って成り立つ場合が多い。証明したい内容にたどり着くまでに必要な条件を考え自分の言葉で説明したり、グループや全体で共有して確認をし、必要に応じて修正、改善したりするなどの活動の工夫が考えられる。



## 2 理科

小学校第6学年



### (1) 概要

- ◎ 大きく上回っている (5ポイント以上) ○ 上回っている (1ポイント以上5ポイント未満)  
－ 同程度 (±1ポイント未満)  
▽ 下回っている (1ポイント以上 5ポイント未満) ▼ 大きく下回っている (5ポイント以上)

#### ① 学習指導要領の領域別正答率

	エネルギー	粒子	生命	地球
県との比較	○	○	○	○
全国との比較	○	◎	○	○

#### ② 観点別正答率

	知識・技能	思考・判断・表現
県との比較	○	○
全国との比較	◎	○

#### ③ 問題形式別正答率

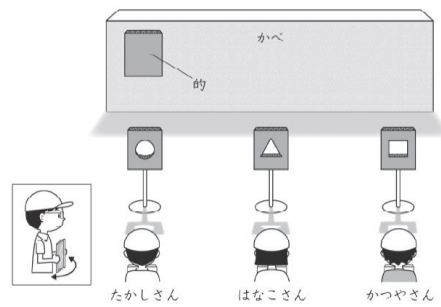
	選択式	短答式	記述式
県との比較	○	◎	○
全国との比較	○	◎	○

### (2) 課題が見られた設問

3 (1)

光の性質を基に、鏡を操作して、指定した的に反射させた日光を当てることができる人を選ぶ。

- ③ たかしさんたちは、晴れた日に科学クラブで、同じ大きさの鏡を使い、日光をはね返して、的あてゲームをしました。



上の図のように、3人とかべの間に、それぞれ、円形、三角形、四角形に切りぬいた、鏡と同じ大きさの段ボールの板を置きました。

- (1) 3人が上の図の位置で鏡の向きを変え、それぞれが日光をはね返して、3つの段ボールの板にあてたときに、かべの左にある的に、三角形の光をあてることができるのはだれですか。下の1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 たかしさん
- 2 はなこさん
- 3 かつやさん
- 4 全員

[正答] 3 かつやさん

[平均正答率] 市31.4% 全国27.8% [無解答率] 市0.2% 全国0.6%

[解答類型と反応率(市)]

解 答 類 型		反応率
1	1 と解答しているもの	11.7%
2	2 と解答しているもの	49.9%
3	3 と解答しているもの (正答)	31.4%
4	4 と解答しているもの	6.8%
上記以外の解答		0.0%
無解答		0.2%

### ① 学習指導要領の内容

第3学年

A 物質・エネルギー

- (3) 光と音の性質について、光を当てたときの明るさや暖かさ、音を出したときの震え方に着目して、光の強さや音の大きさを変えたときの違いを比較しながら調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する技能を身に付けること。

- (ア) 日光は直進し、集めたり反射させたりできること

## ② 考察

本設問は、鏡を操作して反射させた日光を対象として、光の性質を基に、反射させた日光の進み方について問うものである。ここでは、日光は直進することを理解していることが求められる。本市の平均正答率は、全国の平均正答率を上回ってはいるものの、3割強に留まっている。解答類型の反応率では、解答類型2が49.9%と高く、全国と比較してもやや高い。解答類型2を解答した児童は、日光が直進することについての理解が十分でなかったり、三角形に切り抜いた段ボールの板によって光が曲がると捉えたりしていることが考えられる。また、日光は直進するという知識を問題の状況と関連付けて考えることができていないことも考えられる。

日光が直進するといった光の性質について、より深く理解できるようにするためには、主体的な問題解決を通して知識を習得できるようにすることや、習得した知識を実際の自然の事物・現象と関連付けて説明できるようにすることが重要である。

指導に当たっては、例えば、光の進み方に関する問題について、はね返した日光を地面に当てたり、はね返した日光の間に紙を入れたりするなどして、主体的に問題解決をする中、はね返した日光が直進することを捉え、本設問のような場面を説明する学習活動が考えられる。



中学校第3学年

(1) 概要

◎ 大きく上回っている (5ポイント以上) ○ 上回っている (1ポイント以上5ポイント未満)  
 - 同程度 (±1ポイント未満)  
 ▽ 下回っている (1ポイント以上 5ポイント未満) ▼ 大きく下回っている (5ポイント以上)

① 学習指導要領の領域別正答率

	エネルギー	粒子	生命	地球
県との比較	○	○	◎	○
全国との比較	◎	○	◎	◎

② 観点別正答率

	知識・技能	思考・判断・表現
県との比較	○	◎
全国との比較	○	◎

③ 問題形式別正答率

	選択式	短答式	記述式
県との比較	○	○	◎
全国との比較	◎	○	◎

(2) 課題が見られた設問

5 (1)

おもりに働く重力とつり合う力の矢印を選択し、その力について説明する。

5 ばねを押すとき、加える力の大きさとばねが縮む長さの関係について、理科の授業で科学的に探究しました。(1)から(3)までの各問いに答えなさい。

(1) 図2のように、ばねにのせたおもりが静止したとき、矢印で表したおもりにはたらく重力とつり合う力を、下のアからエまでのの中から1つ選びなさい。

また、選んだ力の説明として適切なものを、下の力からケまでのの中から1つ選びなさい。

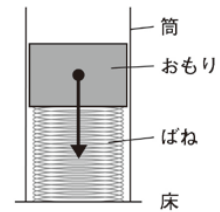
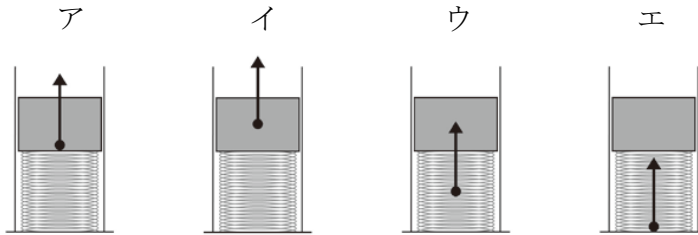


図2 おもりにはたらく重力



カ おもりがばねを押す力      キ ばねがおもりを押す力  
ク おもりが床を押す力      ケ 床がおもりを支える力

[正答]

つり合う力を表した矢印…ア      つり合う力の説明…キ      (両方正解で正答)

[平均正答率] 市16.3% 全国15.3%      [無解答率] 市0.0% 全国0.2%

[解答類型と反応率(市)]

	解 答 類 型		反応率
	つり合う力を表した矢印	つり合う力の説明	
1(正答)	ア と解答しているもの	キ と解答しているもの	16.3%
2	ア と解答しているもの	キ 以外を解答しているもの	1.9%
3	ア 以外を解答しているもの	キ と解答しているもの	67.2%
4	ア 以外を解答しているもの	キ 以外を解答しているもの	14.3%
上記以外の解答			0.2%
無解答			0.0%

① 学習指導要領の内容

第1分野 (1) 身近な物理現象

(イ) 力の働き

㊦ 力の働き

物体に力を働かせる実験を行い、物体に力が働くとその物体が変形したり動き始めたり、運動の様子が変わったりすることを見いだして理解するとともに、

力は大きさと向きによって表されることを知ること。また、物体に働く2力についての実験を行い、力が釣り合うときの条件を見いだして理解すること。

## ② 考察

本設問は、力の働きに関する知識及び技能を活用して、物体に働く重力と釣り合う力を矢印で表し、その力を説明できるかどうかを見るものである。力の働きについて科学的に探究する上で、力は大きさと向きによって表されることや物体に働く2力の釣り合いなど、目に見えない力を矢印で表して説明することが重要である。

本市の平均正答率は、全国の平均正答率を上回ってはいるものの、2割を下回った。解答類型の反応率では、解答類型3が67.2%と高く、全国と比較してもやや高い。解答類型3を解答した生徒は、おもりに働く重力と釣り合う力の説明は指摘できているが、釣り合う力を矢印で表したものを指摘できておらず、静止している物体に働く重力と釣り合う力を矢印で表すこと、または、作用点を力の矢印の始点として表すことに課題があると考えられる。

指導に当たっては、物体に力を働かせる実験を行い、一つの物体に二つの力が働いていることに気付くようにし、それらの力の大きさや向きを矢印で表して、釣り合いの関係を説明する学習場面を設定することが考えられる。

学習場面の例として、令和4年度全国学力・学習状況調査報告書中学校理科(国立教育政策研究所)では、教室内の風景をタブレット型端末で撮影し、画像の中から、物体に働く力や、釣り合う力を見だし、それらの力を矢印で表すなどの学習活動が示されている。

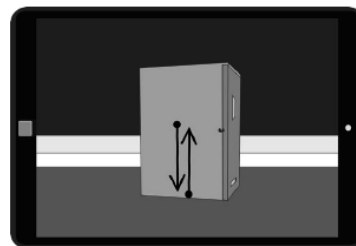
### 学習場面の例

#### <物体に働く力を矢印で表す>

教室内の風景をタブレット型端末で撮影し、画像の中から、物体に働く力や、釣り合う力を見だし、それらの力を矢印で表すなどの学習活動を行うことが考えられる。



理科室で撮影している場面



物体に働く力を矢印で表す

図は、令和4年度全国学力・学習状況調査報告書中学校理科(国立教育政策研究所)より引用

# 学習状況調査（児童・生徒質問紙）の結果について

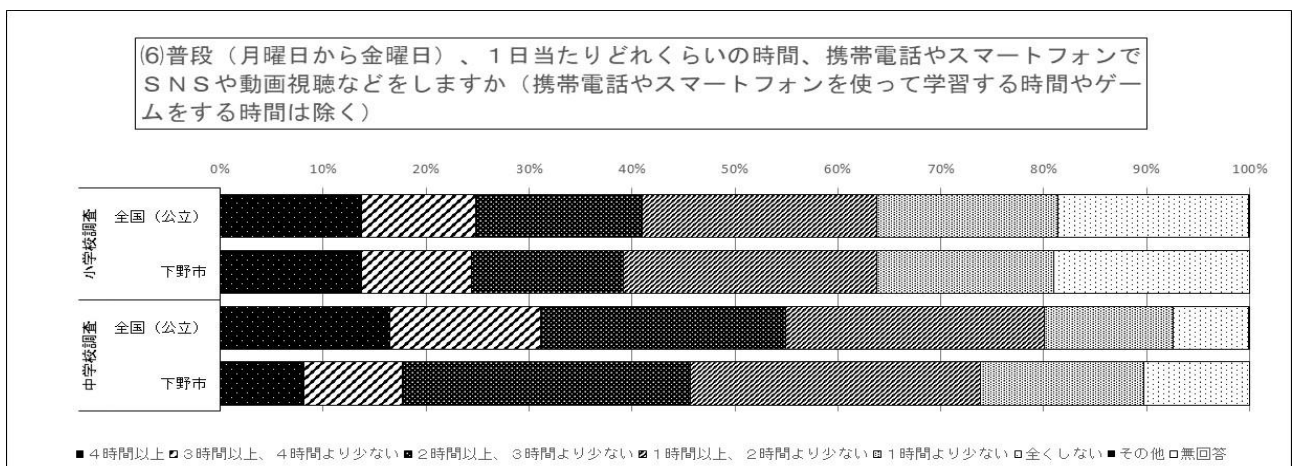
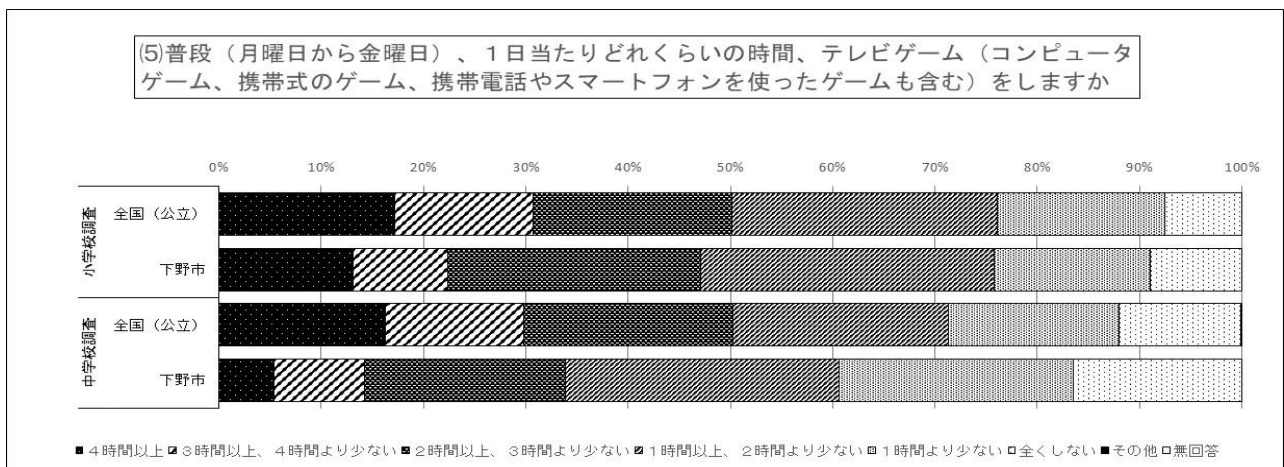
## 1 生活習慣に関連する項目

朝食、就寝時刻、起床時刻に関する項目では、肯定的回答の割合が全国を上回る結果となった。昨年度までも同様の結果を示していることから、本市の児童生徒は全体的に基本的生活習慣が定着していると言える。一方で、起床時刻に比べ就寝時刻が不規則な傾向が続いている。

今後も現在の好ましい生活習慣を継続しつつ、就寝時刻も意識しながら基本的生活習慣の定着を図っていきけるよう、保健や学級活動等の授業の充実や家庭への啓発を図っていくことが求められる。

質問番号	質問事項	小学校 (%)		中学校 (%)	
		市	全国	市	全国
(1)	朝食を毎日食べていますか	96.7	94.4	97.0	91.9
(2)	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	83.1	81.5	84.6	79.9
(3)	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	91.8	90.4	94.5	92.2
(4)	携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか	74.3	71.5	73.2	69.5

※数値は肯定的回答の合計



## 2 自己有用感、人との関わりに関連する項目

全国と比較し、同程度または上回る結果となった。令和3年度調査においては自己有用感に関連する項目が前年度までから低下する傾向が見られたが、令和4年度調査では、小・中学校調査ともに平成31年度以前と同程度の水準まで回復している。また、(8)や(14)の項目が全国を大きく上回っていることから、日頃の先生方の関わり方や声掛け等が児童生徒の安心感や自己有用感を高めていると考えられる。

今後も、児童生徒に寄り添いながら一人一人のよさを認め伸ばしていく指導を継続していただけるようお願いしたい。

質問番号	質問事項	小学校 (%)		中学校 (%)	
		市	全国	市	全国
(7)	自分には、よいところがあると思いますか	83.7	79.3	87.0	78.5
(8)	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	93.8	87.1	93.3	86.6
(9)	将来の夢や目標を持っていますか	83.1	79.8	77.7	67.3
(10)	自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか	91.2	87.2	90.4	86.6
(11)	難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか	77.7	72.5	74.7	67.1
(12)	人が困っているときは、進んで助けていますか	93.1	88.9	92.9	88.4
(13)	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	97.8	96.8	97.4	96.4
(14)	困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか	76.1	68.1	75.2	66.6
(15)	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	96.4	95.1	97.4	95.0
(16)	学校に行くのは楽しいと思いますか	89.6	85.4	88.7	82.9
(17)	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	79.1	73.5	86.9	76.9
(18)	友達と協力するのは楽しいと思いますか	95.0	94.0	95.7	93.7

※数値は肯定的回答の合計

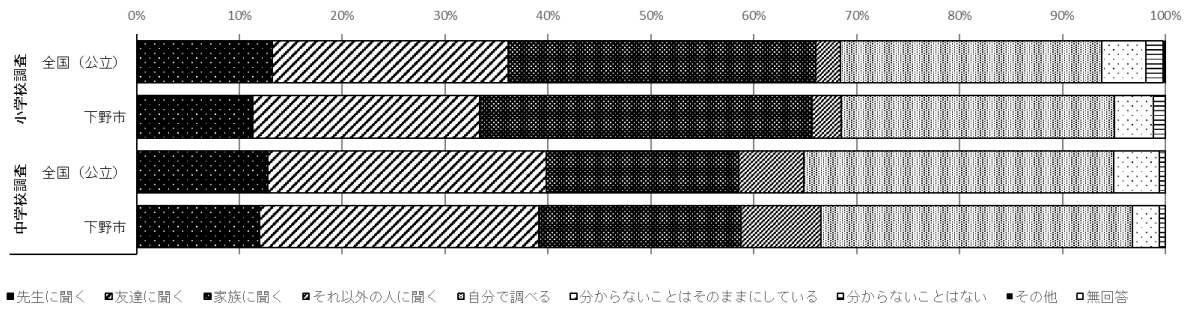
## 3 学習習慣に関連する項目

全国と比較し、自分で計画を立てて学習したり、分からないことをそのままにせず聞いて調べる習慣が身に付いている児童生徒の割合が高い結果となった。また、平日、土日ともに学習している児童生徒の割合も全国を上回っている。各学校や中学校区において、家庭学習の手引きを作成したり家庭学習の強化期間を設けたりするなどの工夫をしていることが成果につながっていると考えられる。

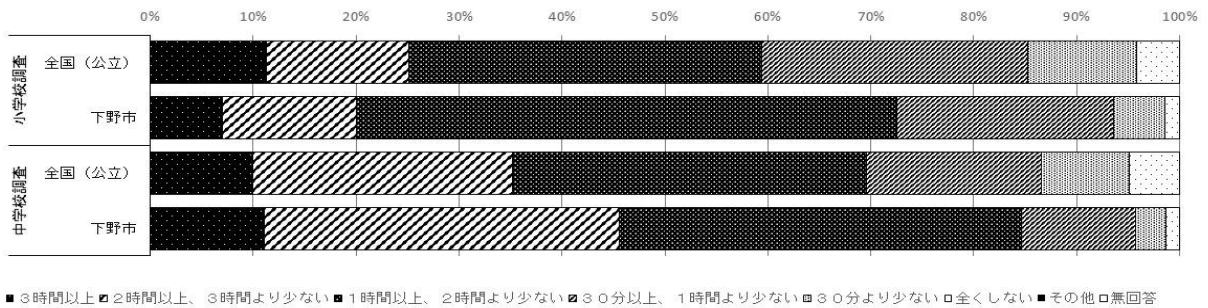
一方で、小学校調査においては読書を好む児童の割合が全国を下回ったり、読書や学習を全くしない児童生徒が一定数見られたりするなど課題も見られる。今後も、これまでの取組を継続しつつ「家読」の機会を設けるなど、家庭の協力も得ながら読書活動の充実を図っていくことが必要である。

質問番号	質問事項	小学校 (%)		中学校 (%)	
		市	全国	市	全国
(20)	家で自分で計画を立てて勉強をしていますか (学校の授業の予習や復習を含む) ※肯定的回答の合計	75.3	71.1	69.4	58.5
(25)	新聞を読んでいますか ※上段：月に1～3回以上と回答した割合 下段：週に1～3回以上と回答した割合	31.0	26.9	35.2	20.9
		15.5	13.8	14.4	9.4
(26)	読書は好きですか ※肯定的回答の合計	70.4	73.1	71.7	68.2

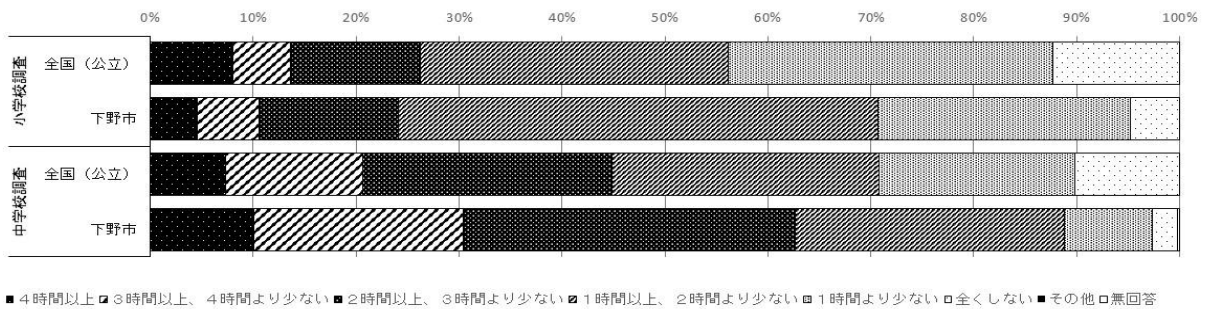
(19)家で学校からの課題で分からないことがあったとき、どのようにしていますか（複数選択）



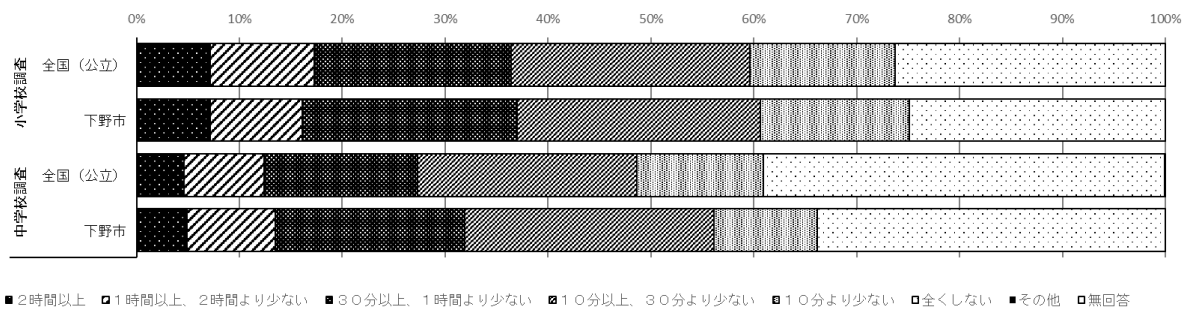
(21)学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）



(22)土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）



(23)学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）



## 4 地域や社会、自然との関わりに関連する項目

全国と比較し、同程度または上回る結果となった。特に、中学校調査における自然との関わりに関する項目では大きく上回っている。コロナ禍において、地域との関わりを設けることが難しい状況ではあるが、地域の大人と関わりをもったり地域の行事に参加したりしている児童生徒が一定数いることがうかがえる。

一方で、「地域や社会をよくするためにすべきことを考えている」と回答した割合は、全国平均を上回っているものの5割程度にとどまっており、児童生徒の地域や社会への関心を高めていくことは喫緊の課題である。小中一貫教育やふるさと学習を通して、自分たちの住む地域をよりよくしていこうとする態度を育てていくとともに、地域・社会への関心を高めていくことが求められる。

質問 番号	質 問 事 項 ※（ ）は中学校	小学校 (%)		中学校 (%)	
		市	全国	市	全国
(27)	自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがありますか	64.0	65.1	61.9	55.0
(28)	地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがありますか (習い事の先生は除く)	31.2	30.6	21.0	21.1
(29)	今住んでいる地域の行事に参加していますか	56.5	52.7	42.0	40.0
(30)	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか	53.1	51.3	53.3	40.7

※数値は肯定的回答の合計

## 5 ICTの活用に関連する項目

小・中学校調査ともに、検索機能の使用場面の割合は全国平均を上回った。タブレット端末導入1年目の令和3年度は、児童生徒や教職員が端末に慣れることを重視してICTの活用を進めてきた。その結果、検索機能を中心に活用の場が増えてきている。

一方で、中学校調査における使用頻度のほか、自分の考えをまとめたり友達と考えを交流したりする場や発表時のツールとしての活用については小・中学校調査ともに全国平均を下回った。今後研究を進め、さらなる活用の推進を図っていくことが求められる。

質問 番号	質 問 事 項 ※（ ）は中学校	小学校 (%)		中学校 (%)	
		市	全国	市	全国
(32)	全学年までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか	84.5	83.2	77.3	80.6
(33)	学校で、授業中に自分で調べる場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか (インターネット検索など)	79.3	76.1	73.7	71.7
(34)	学校で、学級の友達と意見を交換する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか	39.1	49.4	35.7	43.5
(35)	学校で、自分の考えをまとめ、発表する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか	36.8	45.2	28.7	35.3

※数値は週1回以上と回答した割合の合計

## 6 教科に関連する項目

今回調査の対象となったのは、調査で扱った国語、算数・数学、理科の3教科になる。いずれの教科においても、肯定的回答の割合は全国と同程度か上回る結果となった。教科の学習について「大切である」「将来社会に出たときに役に立つ」と考えている児童生徒の割合に対し、その教科の勉強が「好き」と答えている児童生徒の割合は低い。全国も同様の傾向である。勉強することの重要性を理解していてもその教科の勉強が好きではない児童生徒が一定数見られることや、10～20%の児童生徒が「あまりよく分からない」「分からない」と答えていることを踏まえ、どの児童生徒も学習内容が分かる、できる楽しさを実感できるような授業づくりが求められる。

質問 番号	質 問 事 項 ※（ ）は中学校	小学校 (%)		中学校 (%)	
		市	全国	市	全国
(49)	国語の勉強は好きですか	59.4	59.2	69.2	61.9
(50)	国語の勉強は大切だと思いますか	95.3	93.3	97.6	93.2
(51)	国語の授業の内容はよく分かりますか	87.1	84.0	86.9	81.2
(52)	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	92.3	91.8	96.2	89.7
(53)	算数・数学の勉強は好きですか	64.2	62.5	66.6	58.1
(54)	算数・数学の勉強は大切だと思いますか	93.6	94.2	94.1	86.6
(55)	算数・数学の授業の内容はよく分かりますか	80.7	81.2	82.9	76.2
(56)	算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	92.8	93.3	85.6	76.5
(61)	理科の勉強は好きですか	80.9	79.7	69.1	66.4
(62)	理科の勉強は大切だと思いますか	89.8	86.5	85.4	76.8
(63)	理科の授業の内容はよく分かりますか	90.7	88.5	79.6	75.2
(65)	理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	81.3	77.2	73.2	61.5

※数値は肯定的回答の合計

今後、分析結果を学習指導や生活指導の工夫改善等に生かし、児童生徒のさらなる学力向上につなげていきます。